

諫早干拓 費用対効果にカラクリ

四月九日の参議院決算委員会において川崎稔議員(民主・佐賀)の質問に対する若林農林水産大臣の答弁で、諫早干拓をめぐる費用対効果の算出にカラクリがあったことが判明した。諫早干拓事業については、総事業費二五〇〇億円以上、土地改良法が求める事業要件である費用対効果一・〇を下回る〇・八三であるが、この費用対効果の算出に際し、効果の部分で水増しした疑いが濃厚となった。当初計画(昭和六一年)では、事業費が一三五〇億円であったところ、第一回の事業計画変更(平成一一年)により事業費は当初計画の二倍に近い二四九〇億円に膨れ上がった。当初計画段階における費用対効果の国の試算は、一・〇三であったが第一回の計画変更によっても費用対効果は一・〇一と当初計画における費用対効果とほぼ同じ数値となっている。本来、事業費が当初計画よりも倍増したのであれば、費用対効果もそれに伴い半減するはずである。この点について川崎議員は、事業費が倍になれば単純に考えれば費用対効果は半分になる、これが変

わらなかつたというのなぜでしょうかと大臣に質問をした。若林農水大臣は、作物の単価・単収が上がったこと、後背地の防災効果の基礎となる資産価格が上がったことなどを理由に、事業効果が増加したと説明した。しかしながら、昭和六一年から平成一一年の間の物価は上がるどころか逆に八%下がるデフレ傾向にあり、事業効果が増加したとの大臣の説明には合理性がないことは明らかである。土地改良法の要件である費用対効果一・〇をクリアしようと恣意的な数字の操作が行われた疑いがきわめて濃厚となった。

諫早干拓の作物生産費用対効果が当初計画では〇・三二であったのが最終的には〇・〇八と約四分の一にまで減少したこと、そして、費用対効果の大部分が防災効果(〇・〇六)にあることについて、川崎議員は、農水省が行う事業としてのあり方に疑問が残ると指摘した。

民主・川崎・舟山議員が決算委員会で質問

税金の無駄遣いにあ然！

効果の水増し？

諫早干拓費用対効果		
	費用	費用対効果
S61	1350億	1.03
H11	2490億	1.01
H14	2460億	0.83

費用は倍増したのに、費用対効果変わらず??

農水省は、効果に過大な見積りがあるとの指摘に対して、既存施設と同じ機能を有する施設を現時点で建設すればどのような価値になるかとの観点で算出したと説明した。これに対して舟山議員は、三〇年前に建てた百万円の施設が今建てると一千万円かかるということとそれを効果に入れるのは、減価償却していく一般の経済感覚とはズレており、過大に費用対効果を上げるための手法としか思えないと指摘した。

農業効果五〇%下回る

諫早干拓における農業効果が四六・九%しかない(第二回事業計画変更時)ことについて、舟山議員は、農水省旧構造改善局計画部の解説書の中で、農業外の効果が五〇%を越えるような事業は土地改良事業として実施することは考えられないとあることから、諫早干拓事業が、農林水産業の事業としては相応しくないものであると厳しく指摘した。

諫早干拓事業については、現地諫早市においても、農業効果よりも防災効果を強調して説明されてきた経緯があり波紋を呼びそうだ。

作物生産効果四分の一に減少

効果過大な見積り

五月一二日の参議院決算委員会において舟山康江議員(民主・山形)は、諫早干拓をめぐる費用対効果の算出にあたり効果に過大な見積りがあったことを鋭く指摘した。